

令和2年度 事業報告書

目 次

1 全般	2頁
2 主要事業	
(1) 普及啓発事業	
ア 図書出版	2頁
イ 講演会の開催	2頁
ウ ブロック研修会の実施	3頁
エ 各種国民運動等への参加、協力	3頁
オ 自衛隊に対する協力等	3頁
カ 三団体共催賀詞交歓会	3頁
(2) 英霊顕彰事業	
ア 中央	3頁
イ 地方	3頁
(3) 調査研究・提言事業	3頁
3 会議	
(1) 定時総会	4頁
(2) 理事会	4頁
4 会 勢	4頁
5 財 務	5頁
6 県郷友会等との連携	5頁
7 役員改選	5頁
8 表彰等	5頁
9 その他	5頁

1 全 般

令和 2 年度は、前年 12 月に中国武漢で確認された新型コロナ・ウィルスの感染拡大の中で迎えることとなった。この未曾有のコロナ禍の下で、連盟は、県郷友会等との連携を一層密にしつつ、事業計画に基づき「普及啓発」、「英霊顕彰」、「調査研究・提言」の公益三事業の着実な実施に努め、郷友誌の発行の実施などを計画通りできたが、総会の文書形式での実施やブロック研修会の中止など事業計画に掲げた多くの事業が、中止、縮小等の変更を余儀なくされた。

2 主要事業

(1) 普及啓発事業

コロナ対策に万全を期しつつ、国防思想、英霊の顕彰及び殉職自衛隊員の慰霊、歴史・伝統の継承等を会員及び国民に普及啓蒙するため次の事業を実施した。

ア 図書発行

定期刊行誌「郷友」に国防、教育、歴史・伝統、英霊の顕彰等に関する記事を掲載し、例年通り隔月（奇数月）に発行した。

イ 講演会の開催

(ア) 中央

6 回実施予定の「安保フォーラム」は、新型コロナ・ウィルス対策のため、2 回の実施に止まった。延約 70 名が聴講した。

実施日	演 題	講 師
9 月 2 日	「令和 2 年度防衛白書について」	防衛省大臣官房白書作成事務室長 柳田夏美氏
11 月 10 日	「日本よ、ウクライナの轍を踏むな」	政治・外交評論家、ウクライナ出身 アンドリー・ナザレンコ氏

(イ) 地方

コロナ対策によるブロック研修会の中止等により、予定された講演会のほとんどは中止となった。連盟本部から県郷友会への講演会等への助成は、行わなかった。

(ウ) 隊友会主催の「令和 2 年度（第 47 回）防衛セミナー」に協賛、参加した。なお、同セミナーは、参加者を関係者に制限して行われ、一般には Web (YouTube) で配信された。

同セミナーの講師は、福島香織、渡部恒雄の 2 名であり、それぞれ次の URL で聴取できる。

福島香織氏：<https://www.youtube.com/watch?v=KeybYOI-eOI>

渡邊恒雄氏：<https://www.youtube.com/watch?v=jyl03Ki7Hc0>

ウ ブロック研修会の実施

連盟と県郷友会が一体となり相互が抱える問題とその解決策等について意見交換するとともに相互の連携を強化するため7個ブロックで計画されたが、コロナ対策のため全て中止された。

エ 各種国民運動等への参加、協力

自主憲法制定の促進、総理等の靖国神社参拝の定着化、北方領土返還の早期実現等を重視して、日本会議、英霊にこたえる会、北連協等の実施する各種国民運動に参加、協力した。コロナ対策のため、集会の中止、規模の縮小等が相次いだ。連盟は、関係資料の配付、Web開催の紹介等を積極的に行い、関係団体の行う各種事業への協力を努めた。

なお、例年5月3日に行われている新しい日本の憲法をつくる国民会議（自主憲法制定国民会議）主催の「新しい憲法をつくる国民大会」は中止、美しい日本の憲法をつくる国民の会主催の「憲法フォーラム」はWeb配信型式で行われた。また、2月7日に国立劇場で行われた「北方領土返還要求全国大会」は、参加者を制限して行われ、北方四島交流事業（ビザなし渡航）は中止となった。

オ 自衛隊に対する協力等

自衛官及び予備自衛官の募集活動への協力、海外派遣部隊の激励、殉職自衛隊員の慰霊及び駐屯地慰霊行事の支援・協力等、コロナ対策下で各地域の特性に応じた可能な範囲で行った。

カ 三団体共催賀詞交歓会

三団体（郷友連盟、隊友会、自衛隊家族会）共催の賀詞交歓会は、コロナ対策のため、中止した。

(2) 英霊顕彰事業

ア 中央

コロナ対策のため、「全国戦没者追悼式」、「千鳥が淵戦没者墓苑慰霊祭（春・秋）」、「全国戦没者慰霊大祭」及び「戦没者追悼中央国民大会」並びに靖国神社の春秋例大祭等の恒例の行事は、主催者及び関係団体の代表者のみの参加など規模を縮小して行われた。連盟からは、会長及び役員に限定して参加し、鎮魂と慰霊の祈りを捧げた。

連盟総会に併せて全国から参集した会員有志による靖国神社昇殿参拝は、総会の参集を取りやめたため、中止した。

イ 地方

各県郷友会は、県外等からの参加を自粛し、それぞれの地域の特性に応じたコロナ対策を講じて、護国神社及び軍人墓地等における英霊の慰霊顕彰行事の主催等並びに殉職自衛隊員の慰霊行事等への参加・協力を行った。

(3) 調査研究・提言事業

連盟の将来構想を踏まえ、「最小限、政策提言活動を維持できる体制」を維持し、次の活動を行った。

ア これまでの研究成果（「基本から問い直す日本の防衛」及び「憲法改正提言と各国

の憲法、一国防なき憲法への警告」、「国民の物語としての日本の歴史」など) を活用し機会をとらえて、憲法改正、歴史認識等の問題について関係者への普及・提言に努めた。

イ 自由民主党の防衛関係団体との政策懇談会において、郷友活動の柱である「国防思想の普及」、「英霊の顕彰」及び「歴史伝統の継承」に沿った政策提言を行った。この際、連盟創設以来の悲願である自主憲法制定（憲法改正）を強く要望した。

3 会議

(1) 定時総会

区 分	内 容
期 日	令和2年6月8日（文書での決議確定日）
場 所	文書での議決
議 案	第1号議案 「令和元年度事業報告書」 第2号議案 「令和元年度決算報告書・監査報告書」 第3号議案 「役員改選」
報 告	第1号報告 「令和元年度公益目的支出計画実施報告書」 第2号報告 「令和2年度事業計画書」 第3号報告 「令和2年度収支予算書」
裁 決	各議案とも連盟本部案について、全会員の文書による同意が得られ、原案どおり決議されたものと見なされた。

(2) 理事会

年3回実施し、前年度決算・監査報告、役員改選、連盟の将来等について審議すると共に、理事の職務遂行状況等を確認した。

4 会勢

(1) 県郷友会

ア 年度当初に於ける県郷友会数及び休眠中の県郷友会

- ・県郷友会数 36 コ県
- ・休眠県 14 コ県（道北、道央、道南、山形、長野、山梨、福井、岐阜、和歌山、滋賀、鳥取、高知、佐賀、長崎）

イ 年度内の変動

変動はなかった。

(2) 会員数（年度当初）

ア 正会員（カッコ内は、前年度）

総勢：168（170）名

県郷友会合計109（110）名

北海道：3名、東北：11名、関東甲信・静：20名、中部・北陸：17名、

近畿：9（8）名、中国：8名、四国：13名、九州：28（30）名

連盟本部：59（60）名

イ 賛助会員

法人等：26 (28) 社、 個人：8 (9) 名

5 財務

- (1) 今年度は、正味財産の経常収支は、新体制移行後の初年度であり、経費削減、事務所移転及役職員削減、昨年計上した事務所移転との経費の不要等を見込み、正味財産の収支差額を昨年より約200万円少ない約300万円のマイナスで計画したが、各種会議の中止に伴う交通費の執行残等に、約250万円の赤字であった。この結果、年度末における正味財産残高は約1,480万円となった。来年度以降は、新体制移行による経費削減効果を期待できる。(金額の数字は未確定)
- (2) 財務基盤の強化のため、定期刊行誌「郷友」購読数の増加をお願いしたが、購読者の高齢化等による減少を補うには至らなかった。また、団体・法人の賛助会員の入会勧誘を実施したが、賛助会費収入は微減となった。
- このほか、「郷友」への広告掲載による収入増を試み、一定の成果を得た。

6 県郷友会等との連携

- (1) コロナ禍により定時総会、ブロック研修会を中止したが、中止に伴う措置の調整等もあり、メール、FAX、電話等により、県郷友会との相互連携に努めた。
- (2) コロナ禍により三団体(郷友連盟、隊友会、自衛隊家族会)共催の賀詞交歓会の中止、洗心懇談会等の再三の中止等があったが、コロナ禍の動静を見つつ講演会等を通じて友好諸団体との連携に努めて。

7 役員改選

平成2年度 定時総会(6月8日、文書決議成立)における役員改選者数

理事の退任(1名)

1	中村 弘
---	------

理事の新任(1名)

1	袴田忠夫
---	------

理事の重任(1名)

1	越智通隆
---	------

8 表彰等

- (1) 会長表彰(令和2年度定時総会時)

区分	表彰状	感謝状
個人	27名	6名
団体	なし	4団体

- (2) 受賞

自由民主党総裁から感謝状を受賞予定

(*新型コロナウイルス拡散防止のため賞状は郵送される予定であるが未着*)

9 その他

新体制での初めての年度であったが、新事務所での業務に異常なく移行できた。